



ベルとお菓子の家

公式データブック

# ベルと お菓子の家

恐ろしいのは 愛する人に 愛されないこと



初代メルヘンホラーアドベンチャー

# ベルとお菓子の家

推奨年齢：15歳～

公開年月日：  
2014年4月16日

製作ツール：  
RPGツクールVXAce



↑リメイク版『ベルとお菓子の家\_R』のタイトル画面。絵柄は同じだが、初代とはメニューの表示位置が異なる。物語の舞台となるお菓子の家を、主人公の2人がそっと見つめているという構図だが、実際のゲーム中には存在しないシーンである。立ち位置がやや遠く、画面内に収まっていないが、2人は手を繋いでいる。

## ◆どんなゲーム？

本作は、探索やシンプルなアクション、コマンド入力などを利用した複数のミニゲームから成り立つホラーアドベンチャーゲームだ。プレイヤーは、居なくなった妹を探す青年・ハンスを操作し、黒い森の奥深く、人食い魔女が棲むと言われる「お菓子の家」を探索していく。

当時流行していたフリーホラーゲームは『謎解き』と『追跡者からの逃亡』がメインとなる作品が多かったが、本作には謎解き要素は無く、探索と様々なミニゲームがメインとなっている。

また、序盤は巨大化した少年の生首や、自身の誕生日に両足を切断された少女が登場したり、BadEndではヒロインの生首に主人公が口付けるなど、グロテスクかつショッキングな表現も多いのも本作の特徴のひとつだ。

## ◆どんなストーリー？

病気の妹の為、隣国の高名な医師の元を訪れていたハンス。10日間の遠出の後、ハンスが家に戻ると、妹・マルガレーテは姿を消していた。ハンスの懸命の捜索にも関わらず、妹は見つからないまま3日が経った。

物語は、ハンスが近くの村で妹について聞き込みをしている所から始まる。妹に関する有力な情報は得られなかったものの、老婆から「黒い森には人食い魔女の住むお菓子の家がある。妹の事が心配でも、黒い森には入ってはいけないよ」と忠告される。

しかし、この「お菓子の家」こそがハンスの家であり、かつて人食い魔女と呼ばれていたのは彼の実の母親。母親と同じく、食人を好む妹の「食人症」を治す為、ハンスは手を尽くしたが、妹を救うことは出来なかったのだ。

ハンスは、妹を探して迷い込んだ異空間の中で、異質な容姿の少女・ベルリーナと出会う。10日間のハンスの不在で、兄に捨てられたと勘違いし暴走したマルガレーテが、食材にする為に監禁していた子供たちのうちの一人である。ベルを除く子供たちは、既に妹の手に掛かり犠牲となっていた。

当初、マルガレーテと共に心中を考えていたハンスだったが、ベルと共に時間を過ごすうち、彼の中に新たな感情が芽生え始める。その特殊な容姿ゆえに差別を受けながらも、懸命に生きようとする少女の姿に、ハンスは少なからず影響を受けていったのだった。

一方、兄の傍に寄り添う小さな少女を見たマルガレーテは、怒りと嫉妬に心を蝕まれ、更なる凶行へと及んでいく……。

## ◆エンディングリスト

### END 4『脱出』

ハンスは妹探しを諦め、魔女の空間と化したお菓子の家から脱出した。…しかしその数日後、ハンスはお菓子の家のすぐそばで、死体となって発見される。目立った外傷は無く、手には妹のピアスを握っているのみ。ハンスの死体を眺める人々の中には、いずれ会おうはずだった少女・ベルの姿があった……。

### END3『心中』

魔女の正体がハンスの妹・マルガレーテである事を知り、動揺したベルがハンスから離れた瞬間を見計らい、妹はベルを異空間に幽閉後、殺害。その首だけを皿に盛り、ハンスの前に差し出した。幼い少女を守れなかった事、妹の凶行を止められなかった事に絶望したハンスは、妹を手掛け、自身が生まれて来なければ良かったのだと、後悔しながら自害した。

### END2『くちづけ』

共に過ごした時間は短い、ハンスはお菓子の家で出会った少女・ベルを助けたいと強く願うようになっていた。しかし、妹の凶行によってベルは首だけになりハンスの前に差し出される。怒りと絶望から、ハンスは妹を滅多刺しにした後、ベルの首を抱き、その切断面にくちづけする。「美味そうだぜ…ベル」と小さく呟いて。

### END1『生還』

かつて母に虐待されていた頃「孤独と恐怖の魔法」を手に入れ、炎を操る能力を得ていたハンスは、お菓子の家、そして妹と共に焼身自殺を計った。自分の心を救ってくれた少女・ベルだけは、お菓子の家から遠ざけて……。

後日、焼け落ちたお菓子の家へ喪服姿で訪れるベル。2人の思い出の菓子・バウムクーヘンを置いてその場を去ろうとするが、そこへ死んだはずのハンスが現われる。人の顔を判別できないハンスは、服装の違うベルを一瞬認識出来なかったが、ベルが名乗ると「相変わらず、美味そうな名前だな」と言って、笑って見せた。



## 設定資料集

### ハンス(ヨハネス)

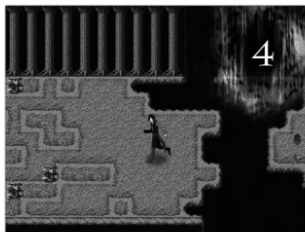
12月2日生まれ、28歳。身長180cm。長い黒髪、鋭い目つきと短い眉、左耳の赤い五角形のピアスが特徴。

マルガレーテの双子の兄。生まれつきミルクと甘い食べ物しか口に出来ず、それ以外の食事を受け付けられない体質。食人を好む母からは「物心つく前から、この子は人を殺し食す事が罪だと知っていて、人肉を拒む為にこんな体質で生まれて来たのではないか」と思われていたが、実際は汗が口に入るなどしても吐き出すことは無く、人間の体液その他を口にすることは可能。幼少時に友人だった少年を母に殺され食べさせられた際、体がそれを受け入れてしまった事にショックを受け、以後人間の顔を識別する事が出来なくなった。

彼にとっては手のかかる(例えるなら妹のような)存在=「子供」で、自分に興味を持ち付きまとう存在=「女」であったため、幼いベルに対しても「面倒な女」といった形容をしている。また、相手に合わせて話し方を変えることが苦手で、作中に登場する老婆、同い年の妹、若い少女・カヤ、幼いベルなど、年代の違いや相手との新密度に関わらず、全ての相手に同じ口調で話している。ただし、語尾に「～だぜ」という話し方は彼なりに気を許した相手に少し軽い調子で言う時にのみ使うため、作中ではベルとの交流シーン以外で聞くことは出来ない。



### -Hans's MEMO-



身体能力が高く、大きな地割れにも臆する事無く前に突き進む事が出来る。また、日頃から他人を遠ざけて生きる為に冷静な人物を演じてはいるが

妹の凶行を目の当たりにしたり、自身のトラウマを思い出した際には、酷く取り乱している。実際には感受性が強く、非常に傷つき易い男なのだ。



### 【ビジュアルデザインについて】

ヒロインであるベルは赤を基調にデザインする事が決まっていたので、彼は黒を基調にデザインしようと思っていました。しかしながら、彼を決して「カッコいい主人公」として描くつもりが無かった事から、当時ダサいと思っていた黄色のシャツを着せる事にしました(完全な偏見)。腰に結んだ異様に長い布は、彼のデザイン考案中に何気なく描いて隣にベルを立たせた際、「顔が見えないハンス」を表現する為に、なびいた腰布でベルの顔を隠した事がきっかけで、そのまま実際のデザインに採用しました。作中、ベルと手を繋ぐか布を掴ませるか、という分岐も作る事が出来たので、今となってはこのデザインにして良かったなと思っています。